

令和6年度 鹿児島大学2次試験前期日程(数学問題)  
理・工・医・歯・農・水産・共同獣医・教育学部  
令和6年2月25日

- 理[数理・物理・地環]・工・医[医]・歯学部 ① ② ⑥ ⑦ 必答,  
③ ④ ⑤ から1問選択. 数I・II・III・A・B(120分)
- 理[生命化]・農・水産・共同獣医学部 ① ② 必答,  
③ ④ ⑤ から1問選択. 数I・II・A・B(90分)
- 教育[数学・理科・技術・教育・心理・家政・国語・社会・英語・特別支援教育・健康教育]学部 ① 必答, ③ ④ ⑤ から1問選択, ② ⑧ から1問選択. 数I・II・A・Bまたは数I・III・A・B(90分)

① 次の各問いに答えよ.

(1) 4個のさいころを同時に投げるとき, ちょうど3個のさいころの出る目が同じになる確率を求めよ.

(2) 次の不等式を解け.

$$|x^2 + 6x - 1| \leq 7 - x$$

(3) 次の数の大小関係を調べ, 小さい順に並べよ. ただし,  $3.1 < \pi < 3.2$  を用いてよい.

$$\frac{1}{2}, \log_{11} \pi, \sqrt[4]{\frac{1}{8}}$$

② 次の関数を考える.

$$y = 4 \sin^3 \theta - 4 \cos^3 \theta + 3\sqrt{2} \sin \theta \cos \theta \quad (0 \leq \theta < 2\pi)$$

また,  $x = \sin \theta - \cos \theta$  とする.

(1)  $x$  のとりうる値の範囲を求めよ.

(2)  $y$  を  $x$  の関数で表せ.

(3)  $y$  の最大値と最小値を求めよ. また, そのときの  $\theta$  の値を求めよ.

**3**  $c \geq 3$  である実数  $c$  に対して,  $x$  の 2 次方程式

$$x^2 - 2(c+1)x + c^2 - 2c + 9 = 0 \quad \cdots \textcircled{1}$$

を考える.

(1) 2 次方程式  $\textcircled{1}$  は,  $c$  より大きい実数解と  $c$  より小さい実数解をもつことを示せ.

(1) の結果を用いて, 次のように数列  $\{a_n\}$  を定める.  $a_1 = 3$  とする.  $c = a_1$  のときの方程式  $\textcircled{1}$  の実数解のうち,  $a_1$  より大きい方を  $a_2$  とおく. 次に  $a_2 > 3$  が成り立つことに注意して,  $c = a_2$  のときの方程式  $\textcircled{1}$  の実数解のうち,  $a_2$  より大きい方を  $a_3$  とおく. これを繰り返す. すなわち,  $3 = a_1 < a_2 < \cdots < a_{n-1} < a_n$  が成り立ち, 2 次方程式

$$x^2 - 2(a_n + 1)x + a_n^2 - 2a_n + 9 = 0 \quad \cdots \textcircled{2}$$

の実数解のうち, 大きい方が  $a_{n+1}$  である.

(2)  $n \geq 2$  とする. 2 次方程式  $\textcircled{2}$  の実数解のうち, 小さい方は  $a_{n-1}$  であることを示せ.

(3) 数列  $\{a_n\}$  が次の漸化式を満たすことを示せ.

$$a_{n+1} = 2a_n - a_{n-1} + 2 \quad (n = 2, 3, \cdots)$$

(4) 数列  $\{b_n\}$  を

$$b_n = a_{n+1} - a_n \quad (n = 1, 2, \cdots)$$

と定めるとき, 数列  $\{b_n\}$  と数列  $\{a_n\}$  の一般項を求めよ.

**4** 座標空間において, 点  $A(2, 0, 4)$ , 点  $B(3, -2, 5)$  を通る直線を  $l$ , 点  $C(3, 2, 2)$ , 点  $D(4, 3, 0)$  を通る直線を  $m$  とする.

(1) 2 つのベクトル  $\overrightarrow{AB}$ ,  $\overrightarrow{CD}$  のなす角を,  $0^\circ$  と  $180^\circ$  の間の範囲で答えよ.

(2) 直線  $l$ ,  $m$  が交わるか交わらないか調べよ.

(3) 直線  $l$ ,  $m$  の両方と交わり, 両方と直交する直線を  $n$  とする.  $n$  と  $l$  の交点, および  $n$  と  $m$  の交点を求めよ.

5 袋の中に  $-1, 0, 1$  が書かれたカードがそれぞれ 1 枚, 1 枚,  $m$  枚ずつ入っている. ただし,  $m$  は自然数である. この袋の中から無作為に 2 枚同時に取り出す. 取り出されたカードに書かれた数字をそれぞれ  $X, Y$  とする. ただし,  $X \leq Y$  とする.

- (1)  $m = 2$  のとき, 確率  $P(X \geq 0)$  を求めよ.
- (2)  $m = 9$  のとき, 確率  $P(Y = 1)$  を求めよ.
- (3)  $XY$  の期待値  $E(XY)$  が正となるような  $m$  のうち, 最小のものを求めよ.

6 座標平面上で, 放物線  $C$  が次の方程式で与えられている.

$$C : 4x - 4y^2 - 3 = 0$$

原点  $O$  から放物線  $C$  に引いた接線で, 傾きが正のものを  $l$  とする. また, 直線  $l$  と放物線  $C$  との共有点を  $A$  とする.

- (1) 直線  $l$  の方程式, および  $A$  の座標を求めよ.
- (2) 直線  $l$  と点  $A$  で接する円で, 放物線  $C$  との共有点が 2 個であるものを求めよ.
- (3) 放物線  $C$ , 直線  $l$  および  $x$  軸で囲まれた部分の面積を求めよ.

7  $n$  を自然数とし, 次の整式を考える.

$$f(x) = x^{6n} + x^{3n} - 2,$$

$$g(x) = x^2 + x + 1, \quad h(x) = x^2 - x + 1$$

- (1) 方程式  $g(x) = 0$  の解は  $x^3 - 1 = 0$  を満たし, 方程式  $h(x) = 0$  の解は  $x^3 + 1 = 0$  を満たすことを示せ.

ここで,  $f(x)$  を 2 次式で割ると, 商が  $(6n - 2)$  次式, 余りが 1 次以下の整式になることに注意すると

$$f(x) = g(x)q(x) + r(x), \quad q(x) \text{ は } (6n - 2) \text{ 次式},$$

$$r(x) \text{ は 1 次以下の整式}$$

と書ける.

- (2)  $r(x) = 0$ , つまり  $f(x)$  は  $g(x)$  で割り切れることを示せ.
- (3)  $f(x)$  が  $h(x)$  で割り切れるならば,  $n$  は偶数であることを示せ.
- (4)  $n = 1$  のとき, 方程式  $f(x) = 0$  のすべての虚数解を極形式で答えよ.

8 関数  $f(x) = \frac{e^x}{e^x + 1}$  を考える. ただし,  $e$  は自然対数の底とする.

- (1) 関数  $y = f(x)$  のグラフの概形をかけ. ただし, 凹凸は調べなくてよい.
- (2) 曲線  $y = f(x)$ , 直線  $x = \log 2$ ,  $x$  軸,  $y$  軸で囲まれた部分の面積を求めよ.
- (3) (2) で定めた部分を  $x$  軸の周りに 1 回転させてできる立体の体積を求めよ.

## 解答例

- 1 (1) 4個のさいころのうち、3個の同じ目を  $A$ 、残りの1個の目を  $B$  とする ( $A \neq B$ )。  $A$ 、 $B$  の選び方が  ${}_6P_2$  通りあるから、求める確率は

$${}_6P_2 \times \frac{4!}{3!1!} \left(\frac{1}{6}\right)^4 = 6 \cdot 5 \times 4 \times \frac{1}{6^4} = \frac{5}{54}$$

- (2)  $|x^2 + 6x - 1| \leq 7 - x$  より

$$-(7 - x) \leq x^2 + 6x - 1 \leq 7 - x$$

したがって

$$\begin{cases} x^2 + 7x - 8 \leq 0 \\ x^2 + 5x + 6 \geq 0 \end{cases} \quad \text{ゆえに} \quad \begin{cases} -8 \leq x \leq 1 \\ x \leq -3, -2 \leq x \end{cases}$$

よって  $-8 \leq x \leq -3, -2 \leq x \leq 1$

補足  $|X| = \max(X, -X)$  であるから、不等式  $|X| \leq Y$  について

$$X \leq Y \quad \text{かつ} \quad -X \leq Y \quad \text{すなわち} \quad -Y \leq X \leq Y$$

- (3)  $3.1 < \pi < 3.2$  より  $9.61 < \pi^2 < 10.24 < 11$

$$\pi < \sqrt{11} \text{ であるから } \log_{11} \pi < \log_{11} \sqrt{11} = \frac{1}{2} \quad \dots \textcircled{1}$$

$$\text{また } \sqrt[4]{\frac{1}{8}} = \sqrt[4]{\left(\frac{1}{2}\right)^3} = \left(\frac{1}{2}\right)^{\frac{3}{4}} > \frac{1}{2} \quad \dots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1}, \textcircled{2} \text{ より } \log_{11} \pi < \frac{1}{2} < \sqrt[4]{\frac{1}{8}} \quad \blacksquare$$

$$\boxed{2} \quad (1) \quad x = \sin \theta - \cos \theta = \sqrt{2} \sin \left( \theta - \frac{\pi}{4} \right) \quad (0 \leq \theta < 2\pi)$$

$$-\frac{\pi}{4} \leq \theta - \frac{\pi}{4} < \frac{7}{4}\pi \text{ であるから} \quad -\sqrt{2} \leq x \leq \sqrt{2}$$

$$(2) \quad x^2 = (\sin \theta - \cos \theta)^2 = 1 - 2 \sin \theta \cos \theta \text{ より} \quad \sin \theta \cos \theta = \frac{1 - x^2}{2}$$

$$\begin{aligned} y &= 4 \sin^3 \theta - 4 \cos^3 \theta + 3\sqrt{2} \sin \theta \cos \theta \\ &= 4(\sin \theta - \cos \theta)(1 + \sin \theta \cos \theta) + 3\sqrt{2} \sin \theta \cos \theta \\ &= 4x \left( 1 + \frac{1 - x^2}{2} \right) + 3\sqrt{2} \cdot \frac{1 - x^2}{2} \\ &= -2x^3 - \frac{3\sqrt{2}}{2}x^2 + 6x + \frac{3\sqrt{2}}{2} \end{aligned}$$

(3) (2) の結果から

$$y' = -6x^2 - 3\sqrt{2}x + 6 = -3(x + \sqrt{2})(2x - \sqrt{2})$$

したがって、 $y$  の増減表は次のようになる。

$x$	$-\sqrt{2}$	$\cdots$	$\frac{1}{\sqrt{2}}$	$\cdots$	$\sqrt{2}$
$y'$		$+$	$0$	$-$	
$y$	$-\frac{7\sqrt{2}}{2}$	$\nearrow$	$\frac{13\sqrt{2}}{4}$	$\searrow$	$\frac{\sqrt{2}}{2}$

$$x = \frac{1}{\sqrt{2}} \text{ のとき} \quad \sqrt{2} \sin \left( \theta - \frac{\pi}{4} \right) = \frac{1}{\sqrt{2}} \quad \text{すなわち} \quad \theta = \frac{5}{12}\pi, \frac{13}{12}\pi$$

$$x = -\sqrt{2} \text{ のとき} \quad \sqrt{2} \sin \left( \theta - \frac{\pi}{4} \right) = -\sqrt{2} \quad \text{すなわち} \quad \theta = \frac{7}{4}\pi$$

$$\text{よって} \quad \theta = \frac{5}{12}\pi, \frac{13}{12}\pi \text{ のとき, 最大値 } \frac{13}{4}\sqrt{2}$$

$$\theta = \frac{7}{4}\pi \text{ のとき, 最小値 } -\frac{7}{2}\sqrt{2}$$

■

- 3 (1)  $f(x) = x^2 - 2(c+1)x + c^2 - 2c + 9$  とおくと ( $c \geq 3$ )

$$f(c) = -4c + 9 = -4(c-3) - 3 < 0$$

$f(x)$  の  $x^2$  の係数が正であるから、 $f(x) = 0$  は、 $c$  より大きい実数解と  $c$  より小さい実数解をもつ。

- (2) 2次方程式

$$x^2 - 2(a_n + 1)x + a_n^2 - 2a_n + 9 = 0 \quad \dots \textcircled{2}$$

の実数解のうち、大きい方が  $a_{n+1}$  であるから、2次方程式

$$x^2 - 2(a_{n-1} + 1)x + a_{n-1}^2 - 2a_{n-1} + 9 = 0 \quad (n \geq 2)$$

の解が  $a_n$  であるから

$$a_n^2 - 2(a_{n-1} + 1)a_n + a_{n-1}^2 - 2a_{n-1} + 9 = 0$$

上式を変形すると

$$a_{n-1}^2 - 2(a_n + 1)a_{n-1} + a_n^2 - 2a_n + 9 = 0 \quad \dots \textcircled{3}$$

③ から、 $a_{n-1}$  は2次方程式 ② の解である。

2次方程式 ② の2つの解  $a_{n+1}$ ,  $a_{n-1}$  は、(1) の結論から  $a_{n-1} < a_n < a_{n+1}$

- (3) 2次方程式 ② の解と係数の関係により

$$a_{n+1} + a_{n-1} = 2(a_n + 1) \quad \text{よって} \quad a_{n+1} = 2a_n - a_{n-1} + 2$$

- (4)  $a_1 = 3$  を ② に代入すると  $x^2 - 8x + 12 = 0$

これを解いて  $x = 2, 6$  ゆえに  $a_2 = 6$

(3) の結果から  $a_{n+1} - a_n = a_n - a_{n-1} + 2$

$b_n = a_{n+1} - a_n$  をこれに適用すると  $b_n = b_{n-1} + 2$

数列  $\{b_n\}$  は初項  $b_1 = a_2 - a_1 = 6 - 3 = 3$ 、公差2の等差数列であるから

$$b_n = 3 + 2(n-1) = 2n + 1$$

$$n > 1 \text{ のとき} \quad a_n = a_1 + \sum_{k=1}^{n-1} b_k = 3 + \sum_{k=1}^{n-1} (2k+1) = n^2 + 2$$

上式は  $n = 1$  のときも成立するから  $a_n = n^2 + 2$  ■

- 4 (1) A(2, 0, 4), B(3, -2, 5), C(3, 2, 2), D(4, 3, 0) より

$$\vec{AB} = (1, -2, 1), \quad \vec{CD} = (1, 1, -2) \quad (*)$$

$\vec{AB}$  と  $\vec{CD}$  のなす角を  $\theta$  とすると ( $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ )

$$\cos \theta = \frac{\vec{AB} \cdot \vec{CD}}{|\vec{AB}| |\vec{CD}|} = \frac{1 \cdot 1 + (-2) \cdot 1 + 1 \cdot (-2)}{\sqrt{1^2 + (-2)^2 + 1^2} \sqrt{1^2 + 1^2 + (-2)^2}} = -\frac{1}{2}$$

したがって  $\theta = 120^\circ$

- (2) (\*) より  $\vec{AB} \times \vec{CD} = 3(1, 1, 1)$

$l$  上の点 A(2, 0, 4),  $m$  上の点 C(3, 2, 2) について  $\vec{AC} = (1, 2, -2)$

$$(\vec{AB} \times \vec{CD}) \cdot \vec{AC} = 3 \neq 0$$

したがって, 直線  $l$ ,  $m$  は交わらない.

- (3)  $n$  と  $l$ ,  $n$  と  $m$  の交点をそれぞれ P, Q とする.

$\vec{OP} = \vec{OA} + s\vec{AB}$ ,  $\vec{OQ} = \vec{OC} + t\vec{CD}$  とおけるから

$$\vec{OP} = (2, 0, 4) + s(1, -2, 1) = (2 + s, -2s, 4 + s)$$

$$\vec{OQ} = (3, 2, 2) + t(1, 1, -2) = (3 + t, 2 + t, 2 - 2t)$$

$$\vec{PQ} = \vec{OQ} - \vec{OP} = (-s + t + 1, 2s + t + 2, -s - 2t - 2)$$

$(\vec{AB} \times \vec{CD}) // \vec{PQ}$  であるから

$$-s + t + 1 = 2s + t + 2 = -s - 2t - 2$$

これを解いて  $s = -\frac{1}{3}$ ,  $t = -1$

したがって  $P\left(\frac{5}{3}, \frac{2}{3}, \frac{11}{3}\right)$ ,  $Q(2, 1, 4)$

よって  $n$  と  $l$  の交点は  $\left(\frac{5}{3}, \frac{2}{3}, \frac{11}{3}\right)$

$n$  と  $m$  の交点は  $(2, 1, 4)$





- 5 (1)  $m = 2$  より,  $-1, 0, 1, 1$  の 4 枚のカードから 2 枚取り出すとき,  $X \geq 0$  となるのは,  $0, 1, 1$  の 3 枚のうち 2 枚を取り出す確率であるから

$$P(X \geq 0) = \frac{{}_3C_2}{{}_4C_2} = \frac{3}{6} = \frac{1}{2}$$

- (2)  $m = 9$  より,  $-1, 0, \overbrace{1, \dots, 1}^{9 \text{枚}}$  の 11 枚のカードから 2 枚取り出すとき,  $Y = 0$  となるのは,  $-1, 0$  の 2 枚のうち 2 枚を取り出す確率で

$$P(Y = 0) = \frac{{}_2C_2}{{}_{11}C_2} = \frac{1}{55}$$

求める確率は, この余事象の確率であるから

$$P(Y = 1) = 1 - P(Y = 0) = 1 - \frac{1}{55} = \frac{54}{55}$$

- (3)  $-1, 0, \overbrace{1, \dots, 1}^{m \text{枚}}$  の  $m + 2$  枚のカードから 2 枚取り出すとき,  $XY$  が正となるのは,  $m \geq 2$  であることが必要であるから

$$\begin{aligned} P(X = Y = 1) &= \frac{{}_mC_2}{{}_{m+2}C_2} = \frac{m(m-1)}{(m+2)(m+1)} \\ P(X = 0, Y = 1) &= \frac{1 \cdot {}_mC_1}{{}_{m+2}C_2} = \frac{2m}{(m+2)(m+1)} \\ P(X = -1, Y = 1) &= \frac{1 \cdot {}_mC_1}{{}_{m+2}C_2} = \frac{2m}{(m+2)(m+1)} \\ P(X = -1, Y = 0) &= \frac{1 \cdot 1}{{}_{m+2}C_2} = \frac{2}{(m+2)(m+1)} \end{aligned}$$

上の結果から,  $XY$  の確率分布表は次のようになる.

$XY$	-1	0	1	計
確率	$\frac{2m}{(m+2)(m+1)}$	$\frac{2m+2}{(m+2)(m+1)}$	$\frac{m(m-1)}{(m+2)(m+1)}$	1

したがって

$$\begin{aligned} E(XY) &= -1 \cdot \frac{2m}{(m+2)(m+1)} + 1 \cdot \frac{m(m-1)}{(m+2)(m+1)} \\ &= \frac{m(m-3)}{(m+2)(m+1)} \end{aligned}$$

よって,  $E(XY) > 0$  となる最小の整数  $m$  は  $m = 4$  ■

6 (1)  $C: 4x - 4y^2 - 3 = 0$  より  $x = y^2 + \frac{3}{4}$  ゆえに  $\frac{dx}{dy} = 2y$

逆関数定理により  $\frac{dy}{dx} = \frac{1}{\frac{dx}{dy}} = \frac{1}{2y}$

点 A の座標を  $\left(a^2 + \frac{3}{4}, a\right)$  とおくと, 点 A における接線  $l$  の方程式は,

その傾き  $\frac{1}{2a}$  が正であることを注意して

$$l: y - a = \frac{1}{2a} \left\{ x - \left( a^2 + \frac{3}{4} \right) \right\} \quad (a > 0)$$

$l$  は原点 O を通るから

$$-a = -\frac{1}{2a} \left( a^2 + \frac{3}{4} \right) \quad \text{ゆえに} \quad a^2 = \frac{3}{4}$$

$$a > 0 \text{ より, } a = \frac{\sqrt{3}}{2} \text{ であるから} \quad l: y = \frac{x}{\sqrt{3}}, \quad A \left( \frac{3}{2}, \frac{\sqrt{3}}{2} \right)$$

(2)  $C$  上の点  $A \left( \frac{3}{2}, \frac{\sqrt{3}}{2} \right)$  における法線の方程式は

$$y - \frac{\sqrt{3}}{2} = -\sqrt{3} \left( x - \frac{3}{2} \right) \quad \text{すなわち} \quad y = -\sqrt{3}(x - 2)$$

この法線上に接する円の中心があるから, その中心を  $T(t + 2, -\sqrt{3}t)$  とし,  $C$  上の点  $P \left( y^2 + \frac{3}{4}, y \right)$  とし, 次の関数を考える.

$$\begin{aligned} \varphi(y) &= TP^2 - TA^2 \\ &= \left( y^2 - t - \frac{5}{4} \right)^2 + (y + \sqrt{3}t)^2 - \left( t + \frac{1}{2} \right)^2 - \left( \sqrt{3}t + \frac{\sqrt{3}}{2} \right)^2 \\ &= \left( y^2 - \frac{3}{4} \right) \left( y^2 - 2t - \frac{7}{4} \right) + \left( y - \frac{\sqrt{3}}{2} \right) \left( y + 2\sqrt{3}t + \frac{\sqrt{3}}{2} \right) \\ &= \left( y - \frac{\sqrt{3}}{2} \right) \left\{ \left( y + \frac{\sqrt{3}}{2} \right) \left( y^2 - 2t - \frac{7}{4} \right) + \left( y + 2\sqrt{3}t + \frac{\sqrt{3}}{2} \right) \right\} \\ &= \left( y - \frac{\sqrt{3}}{2} \right) \left\{ \left( y + \frac{\sqrt{3}}{2} \right) \left( y^2 - \frac{3}{4} \right) - 2t \left( y - \frac{\sqrt{3}}{2} \right) \right\} \\ &= \left( y - \frac{\sqrt{3}}{2} \right)^2 \left\{ \left( y + \frac{\sqrt{3}}{2} \right)^2 - 2t \right\} \end{aligned}$$

$\varphi(y) = 0$  が異なる 2 つの解をもてばよいから

$$\left(y + \frac{\sqrt{3}}{2}\right)^2 - 2t = 0$$

が重解  $\left(y \neq \frac{\sqrt{3}}{2}\right)$  または  $y = \frac{\sqrt{3}}{2}$  を解にもつときであるから

$$t = 0 \quad \text{または} \quad t = \frac{3}{2}$$

求める円の半径を  $r$  とすると

$$r^2 = \text{TA}^2 = \left(t + \frac{1}{2}\right)^2 + \left(\sqrt{3}t + \frac{\sqrt{3}}{2}\right)^2$$

中心  $T(t+2, -\sqrt{3}t)$  より, 求める円の方程式は

$$(x-2)^2 + y^2 = 1, \quad \left(x - \frac{7}{2}\right)^2 + \left(y + \frac{3\sqrt{3}}{2}\right)^2 = 16$$

補足  $\frac{\sqrt{3}}{2} = a < s < t$  とし,  $C$  上に 3 点

$$A\left(a^2 + \frac{3}{4}, a\right), \quad S\left(s^2 + \frac{3}{4}, s\right), \quad T\left(t^2 + \frac{3}{4}, t\right)$$

をとる. 3 点  $A, S, T$  を通る円を考え, その中心を  $(p, q)$ , 半径を  $r$  とし, 関数

$$f(y) = \left(y^2 + \frac{3}{4} - p\right)^2 + (y - q)^2 - r^2$$

を考えると, 次式が成立する.

$$f(a) = f(s) = f(t) = 0 \quad (*)$$

$f(y)$  の第 1 次導関数および第 2 次導関数を求めると

$$\begin{aligned} f'(y) &= 4y \left(y^2 + \frac{3}{4} - p\right) + 2(y - q), \\ f''(y) &= 4 \left(y^2 + \frac{3}{4} - p\right) + 4y \cdot 2y + 2 \\ &= 12y^2 + 5 - 4p \end{aligned}$$

(\*) にロルの定理を適用すると (ロルの定理は平均値の定理の一部)

$$f'(c_1) = f'(c_2) = 0 \quad (a < c_1 < s < c_2 < t)$$

を満たす  $c_1, c_2$  が存在する. 上式にさらにロルの定理を適用すると

$$f''(c_3) = 0 \quad (c_1 < c_3 < c_2)$$

を満たす  $c_3$  が存在する. ここで,  $t \rightarrow a$  とすると, 次式が成立する.

$$f'(a) = 0, \quad f''(a) = 0$$

したがって

$$4a \left( a^2 + \frac{3}{4} - p \right) + 2(a - q) = 0, \quad 12a^2 + 5 - 4p = 0$$

これを解いて

$$p = 3a^2 + \frac{5}{4}, \quad q = -4a^3 \quad \dots \textcircled{1}$$

$f(a) = 0$  であるから

$$\left( a^2 + \frac{3}{4} - 3a^2 - \frac{5}{4} \right)^2 + (a + 4a^3) - r^2 = 0$$

整理すると

$$\begin{aligned} r^2 &= \frac{1}{4}(1 + 4a^2)^2 + a^2(1 + 4a^2)^2 \quad \dots \textcircled{2} \\ &= \frac{1}{4}(1 + 4a^2)^3 \end{aligned}$$

これから,  $C$  上の点  $A$  における接触円  $S_1$  の中心および半径は

$$\text{中心} \left( 3a^2 + \frac{5}{4}, -4a^3 \right), \quad \text{半径} \frac{1}{2}(1 + 4a^2)^{\frac{3}{2}}$$

**補足** 接触円 (曲率円) の中心を曲率中心といい, 半径を曲率半径という. また, 曲率中心は,  $C$  の  $A$  における法線上の点である. 点  $A$  で接する円の半径が曲率半径よりも大きいとき, 円と  $C$  の共有点の個数は 3 個ある. また, 点  $A$  で接する円の半径が曲率半径よりも小さいときは, 距離 2 乗関数を用いて確認する必要がある.

①, ②により,  $f(y)$  は

$$\begin{aligned}
 f(y) &= \left(y^2 + \frac{3}{4} - 3a^2 - \frac{5}{4}\right)^2 + (y + 4a^3)^2 - \frac{1}{4}(1 + 4a^2)^2 - a^2(1 + 4a^2)^2 \\
 &= \left(y^2 - 3a^2 - \frac{1}{2}\right)^2 - \left(\frac{1}{2} + 2a^2\right)^2 + (y + 4a^3)^2 - (a + 4a^3)^2 \\
 &= (y^2 - a^2)(y^2 - 5a^2 - 1) + (y + 8a^3 + a)(y - a) \\
 &= (y - a)\{(y + a)(y^2 - 5a^2 - 1) + (y + 8a^3 + a)\} \\
 &= (y - a)(y^3 + ay^2 - 5a^2y + 3a^3) \\
 &= (y - a)^3(y + 3a)
 \end{aligned}$$

$f(y) = 0$  の解は 2 個であるから,  $S_1$  は  $C$  と異なる 2 点を共有する.  $C$  の  $y$  座標が  $y < -3a$ ,  $a < y$  のとき,  $C$  は  $S_1$  の外部にあり,  $C$  の  $y$  座標が  $-3a < y < a$  のとき,  $C$  は  $S_1$  の内部にある.

また,  $C$  の A における法線と  $x$  軸の交点を B とすると  $B(2, 0)$

$C$  の  $x$  軸に関する対称性から, B を中心とする半径 BA の円  $S_2$  も異なる接点を 2 個もつことが分かるが, これ以外に共有点を持たないことを距離 2 乗関数を使って示す必要がある.

$$BA^2 = \left(\frac{3}{2} - 2\right)^2 + \left(\frac{\sqrt{3}}{2} - 0\right)^2 = 1$$

$C$  上の点  $P\left(y^2 + \frac{3}{4}, y\right)$  をとり, 次の関数  $g(y)$  を考える.

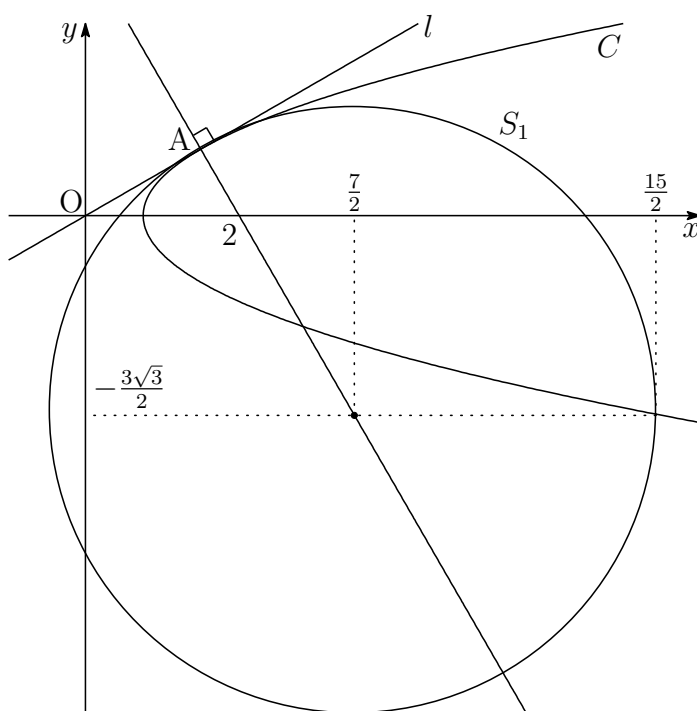
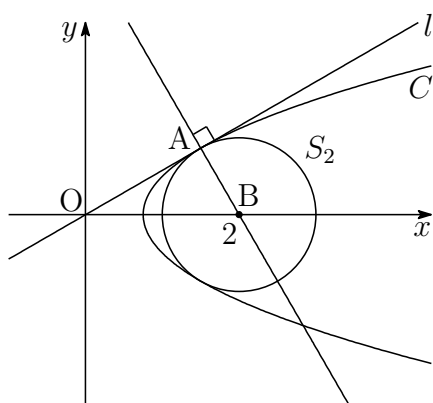
$$\begin{aligned}
 g(y) &= BP^2 - BA^2 = \left(y^2 + \frac{3}{4} - 2\right)^2 + y^2 - 1 \\
 &= \left(y^2 - \frac{5}{4}\right)^2 + y^2 - 1 = y^4 - \frac{3}{2}y^2 + \frac{9}{16} \\
 &= \left(y^2 - \frac{3}{4}\right)^2 = \left(y + \frac{\sqrt{3}}{2}\right)^2 \left(y - \frac{\sqrt{3}}{2}\right)^2
 \end{aligned}$$

$g(y) = 0$  の解は 2 個であるから,  $S_2$  と  $C$  は異なる 2 点を共有する. よって, 求める円の方程式は

$$\left(x - \frac{7}{2}\right)^2 + \left(y + \frac{3\sqrt{3}}{2}\right)^2 = 16, \quad (x - 2)^2 + y^2 = 1$$

(3)  $C: x = y^2 + \frac{3}{4}$ ,  $l: x = \sqrt{3}y$  の方程式から, 求める面積を  $S$  とすると

$$\begin{aligned} S &= \int_0^{\frac{\sqrt{3}}{2}} \left( y^2 + \frac{3}{4} - \sqrt{3}y \right) dy = \int_0^{\frac{\sqrt{3}}{2}} \left( y - \frac{\sqrt{3}}{2} \right)^2 dy \\ &= \frac{1}{3} \left[ \left( y - \frac{\sqrt{3}}{2} \right)^3 \right]_0^{\frac{\sqrt{3}}{2}} = \frac{\sqrt{3}}{8} \end{aligned}$$



- 7 (1)  $g(x) = 0$ ,  $h(x) = 0$  の解をそれぞれ  $\alpha$ ,  $\beta$  とすると

$$g(\alpha) = 0, \quad h(\beta) = 0$$

$x^3 - 1 = (x - 1)g(x)$ ,  $x^3 + 1 = (x + 1)h(x)$  であるから

$$\alpha^3 - 1 = (\alpha - 1)g(\alpha) = 0, \quad \beta^3 + 1 = (\beta + 1)h(\beta) = 0$$

よって、方程式  $g(x) = 0$  の解は  $x^3 - 1 = 0$  を満たし、方程式  $h(x) = 0$  の解は  $x^3 + 1 = 0$  を満たす。

- (2) (1) の結論から、 $\alpha^3 = 1$  であるから

$$\begin{aligned} f(\alpha) &= \alpha^{6n} + \alpha^{3n} - 2 \\ &= (\alpha^3)^{2n} + (\alpha^3)^n - 2 = 1^{2n} + 1^n - 2 = 0 \end{aligned}$$

因数定理により、 $f(x)$  は  $g(x)$  を因数にもつ、すなわち、 $f(x)$  は  $g(x)$  で割り切れる。

別解  $f(x)$  が  $x^2 + x + 1$  を因数にもつことを示す。

$$\begin{aligned} x^{6n} + x^{3n} - 2 &= (x^{3n} + 2)(x^{3n} - 1) \\ &= (x^{3n} + 2)(x^3 - 1) \sum_{k=1}^n x^{3(k-1)} \\ &= (x^{3n} + 2)(x - 1)(x^2 + x + 1) \sum_{k=1}^n x^{3(k-1)} \end{aligned}$$

- (3) (1) の結論より、 $\beta^3 = -1$  であるから

$$\begin{aligned} f(\beta) &= \beta^{6n} + \beta^{3n} - 2 = (\beta^3)^{2n} + (\beta^3)^n - 2 \\ &= (-1)^{2n} + (-1)^n - 2 = (-1)^n - 1 \end{aligned}$$

上式より、 $f(\beta) = 0$  となるのは、 $n$  が偶数のときであり、このとき、 $f(x)$  は  $h(x)$  を因数にもつ。

$$(4) \ n = 1 \text{ のとき } f(x) = x^6 + x^3 - 2 = (x^3 + 2)(x^3 - 1)$$

$$f(x) = 0 \text{ のとき } x^3 = -2 \text{ または } x^3 = 1$$

$f(x) = 0$  の解を次式で表す.

$$x = r(\cos \theta + i \sin \theta) \quad (r > 0, 0 \leq \theta < 2\pi)$$

(i)  $x^3 = -2$  のとき, 方程式は

$$r^3(\cos 3\theta + i \sin 3\theta) = 2(\cos \pi + i \sin \pi)$$

両辺の絶対値と偏角を比較すると

$$r^3 = 2, \quad 3\theta = \pi + 2k\pi \quad (k \text{ は整数})$$

$$\text{したがって } r = \sqrt[3]{2}, \quad \theta = \frac{2k+1}{3}\pi \quad (k = 0, 1, 2)$$

(ii)  $x^3 = 1$  のとき, 方程式は

$$r^3(\cos 3\theta + i \sin 3\theta) = 1(\cos 0 + i \sin 0)$$

両辺の絶対値と偏角を比較すると

$$r^3 = 1, \quad 3\theta = 2k\pi \quad (k \text{ は整数})$$

$$\text{したがって } r = 1, \quad \theta = \frac{2k}{3}\pi \quad (k = 0, 1, 2)$$

(i), (ii) から,  $f(x) = 0$  のすべての虚数解を表記すると

$$\sqrt[3]{2} \left( \cos \frac{2k+1}{3}\pi + i \sin \frac{2k+1}{3}\pi \right) \quad (k = 0, 2),$$

$$\cos \frac{2k}{3}\pi + i \sin \frac{2k}{3}\pi \quad (k = 1, 2)$$

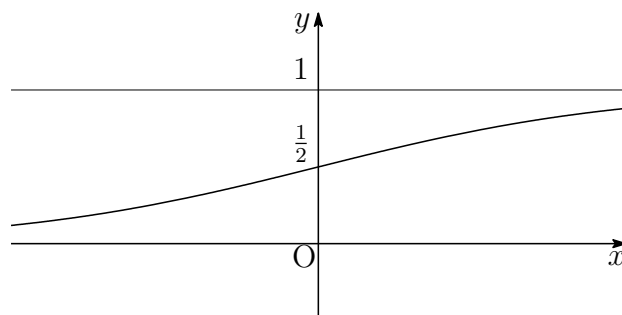




8 (1)  $f(x) = 1 - \frac{1}{e^x + 1}$  より  $f'(x) = \frac{e^x}{(e^x + 1)^2} > 0$

$$\lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = 1, \quad \lim_{x \rightarrow -\infty} f(x) = 0$$

$f(x)$  は単調増加で、グラフの概形は次のようになる。



(2) 求める面積を  $S$  とすると

$$S = \int_0^{\log 2} \frac{e^x}{e^x + 1} dx = \left[ \log(e^x + 1) \right]_0^{\log 2} = \log \frac{3}{2}$$

(3) 求める回転体の体積を  $V$  とすると

$$\frac{V}{\pi} = \int_0^{\log 2} \left( \frac{e^x}{e^x + 1} \right)^2 dx$$

$$t = e^x + 1 \text{ とおくと } \frac{dt}{dx} = e^x = t - 1 \quad \begin{array}{c|c} x & 0 \rightarrow \log 2 \\ \hline t & 2 \rightarrow 3 \end{array}$$

$$\begin{aligned} \frac{V}{\pi} &= \int_2^3 \left( \frac{t-1}{t} \right)^2 \frac{1}{t-1} dt = \int_2^3 \left( \frac{1}{t} - \frac{1}{t^2} \right) dt \\ &= \left[ \log t + \frac{1}{t} \right]_2^3 = \log \frac{3}{2} - \frac{1}{6} \end{aligned}$$

よって  $V = \pi \left( \log \frac{3}{2} - \frac{1}{6} \right)$

